

各関係機関長 殿  
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

### 平成27年度農作物病虫害発生予察情報について

平成27年度農作物病虫害発生予察特殊報第3号を発表したので送付します。

平成27年度農作物病虫害発生予察特殊報第3号

平成28年3月31日  
徳 島 県

1 病虫害名  
レタス白絹病 (病原菌: *Sclerotium rolfsii*)

2 発生作物  
レタス

3 発生地域  
阿波市

#### 4 発生概況

平成26年10月および平成27年10月、徳島県阿波市のレタスにおいて本圃定植間もない株や収穫前の株が萎凋する症状が発生した(図1)。徳島県立農林水産総合技術支援センター資源環境研究課で分離・同定したところ、本県では未発生の *Sclerotium rolfsii* によるレタス白絹病と判明した。

本病の発生は、これまでに茨城県(平成17年)、香川県(平成19年)で確認されている。

#### 5 症状等

本病は秋から初冬にかけて発生する。発病すると外葉の地際部が水浸状から褐色に腐敗し、病勢が進むと株全体が萎凋し、最終的には枯死に至る(図2)。発病株やその周辺土壌の表面は白絹状の病原菌糸で覆われ、菌糸体上にはアワ粒大(直径約1~2mm程度)で茶褐色の小粒菌核が密生するようになる(図3)。病原菌は不完全菌類に属する糸状菌で、小粒菌核が土壌中に残存し、伝染源となる。菌糸体を顕微鏡で観察すると主軸菌糸には、かすがい連結(クランプコネクション)が観察される。

## 6 対策

- (1) 現在, 登録薬剤はない。
- (2) 発病株の早期発見に努め, 発病株および発病箇所菌核を除去する。
- (3) 発病地では病原菌の菌核が土壌中に残存して伝染源となるため, 連作を避け, 太陽熱消毒または土壌還元消毒をする。
- (4) 多量の生ワラなどの未熟有機物を施用すると, 病原菌が繁殖し多発の原因となるので避ける。
- (5) 発生圃場から長靴等を介して汚染土壌を未発生圃場へ持ち込まないように注意する。発生圃場での作業は最後となるように計画し, 収穫終了後は, トラクター等の農機具や長靴等の洗浄・消毒を徹底する。
- (6) 株元の多湿が発病を助長するので, 高畝などほ場の排水を良くする対策を講じる。



図1 本圃での発生状況



図2 白絹病による萎凋症状



図3 白絹病の菌糸体と小粒菌核